

## 平成 29 年度 「ふじのくに木使い建築カレッジ・基礎講座」のご報告

県と県木材協同組合連合会は、店舗やレストランなど民間の非住宅分野での県産材利用をさらに拡大するため「ふじのくに木使い建築カレッジ」（基礎講座）を新たに開講しましたので、講座の様子を紹介します。

### ◆講座概要

内 容：ふじのくに木使い建築カレッジ・基礎講座（県内の建築士と林業・木材業者の合同研修）  
日 時：平成 29 年 7 月 27（木）～7 月 28 日（金）  
場 所：静岡県伊豆の国市「伊豆長岡温泉・おおとり荘」  
参加者：受講生 30 名、講師 6 名  
主 催：静岡県・静岡県木材協同組合連合会

### ◆講座の様子

7/27（木）レクチャー A

#### 「中大規模建築の木造・木質化のススメ」

原田浩司 講師（木構造振興(株)客員研究員）

木材を使う優位性として、古い木造の建物や RC 造の建物に比べて、新しい木造の建物や内装を木質化した建物では、温度差が少なく温かいこと、インフルエンザで学級閉鎖した率が低いことなどの説明がありました。



7/27 (木) レクチャーB

**「県内の丸太生産から製材加工及び流通の現状と今後の課題」**

**池田潔彦 講師 (静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター木材林産科長)**

今後増加する中・大径の丸太を製材加工して、建築部材の強度を丸太の段階で判定する研究や森林認証ヒノキ集成材を生産する“ひき板 (ラミナ)”の製材方法等の検証などの説明がありました。



**「中小規模公共建築物・福祉施設等への納材に向けて」**

**柳川 真佐明 講師 (静岡県木材協同組合連合会 国産材担当理事)**

静岡県内の人工林は、先人たちが、間伐、枝打ち等の手入れをした良質な山が多いことから、品質や強度の基準を定めた「しずおか優良木材認証制度」により、その担保ができたなどの説明がありました。



7/27 (木) レクチャーC

**「地域の木材を活かす建築とはI」**

**古川泰司 講師 (アトリエフルカワー級建築士事務所 代表)**

建築とは、「モノ」を使って「コト」を起こすことであり、「わらしべの里共同保育所」を事例に、設計とは、伸び伸び自由にしている子供の笑顔のような「コト」を作り出すことが大切であるなどの説明がありました。



**「静岡県内の公共建築物の木造化と木質化の状況」**

**早津和之 講師 (静岡県経営管理部財務局営繕工事課長)**

平成8年度、県住宅課に所属時に「静岡県木造住宅館」という全国初の県営のモデル住宅の建設・運営を担当したこと、平成12年度に県内の設計者や大工・工務店向けの「しずおか木造塾」を開講したことなどの説明がありました。



7/27 (木) セミナーA

**「建築施設における県産材利用のメリット・デメリット」**

**安田哲也 講師 (NPO 法人サウンドウッズ代表理事) ほか 5 名の講師**

レクチャーA～Cの内容等に対し、建築士の疑問を解決するため、グループワークが行われました。このグループワークの目標到達点は、双方の疑問を解決し、「建築士と木材関係者」の垣根を取り払う機会とすることとしました。

グループ内の建築士から数多くの質疑を受ける 2 名の木材関係者は、熱心に説明している姿が印象的でした。



7/28 (金) セミナーB

**「建築士による地域材コーディネート」安田講師**

公共建築物の木造・木質化では、①発注者側、②設計者側、③木材供給側、それぞれに課題がある、と説明がありました。しかし、静岡県は、③の木材供給側について、地域の製材工場が共同で納材する製材ネットワークの取組が先行しており、全国的に見ても恵まれているなどの説明がありました。



レクチャーD

**「地域の木材を活かす建築とはⅡ」古川講師**

「中大規模の非住宅は、無垢材で使うには、大径材・長尺材が必要になる。静岡には、A材の割合が多く55%あると聞く。これをしっかり使って、是非、山に利益を還元してもらいたい。皆伐して、選別して、販売して、植林する流れが良いと思う。」などの説明がありました。



7/28 (金) セミナーC

**「木のこども園」基本計画策定 安田講師**

受講生は、老朽化した市内の保育園を、地域の木材を使って建て替えるための検討委員会を想定し、静岡県内の自治体に住む林業や製材・流通、木造建築の専門家の立場になって、意見を出し合いました。

委員会では、地域の宝となる子供たちが育つ、魅力的な木の建築を整備するため、基本計画を策定しました。



7/28（金）セミナーD

**「グループ発表」全体講評 安田講師、古川講師、柳川講師**

各講師の主な発言を記載します。

（柳川講師）木材のメンテナンスについて、皆さんの意識が高いと感じました。園舎の木造化について、父兄や先生にも説明をして、理解を広げてもらえるというのはありがたい発想です。

（古川講師）皆さんとても熱心に議論されているのが印象的でした。静岡もこれで安泰です。新たな一歩を踏み始めました。少し残念だったのは、講義で説明した「わらしべの里共同保育所」の事例をベースにして、基本計画を検討させてしまったのかな、と感じたことです。もう少し自由に考えていただいても良いのかなと感じました。

（安田講師）設計を行うなかで、木材についてわからないことは、お集りの木材事業関係者にメールや電話で問い合わせるような関係を築くことができる、もっとスムーズに日頃の業務が進むと思いますし、建築士の受講生も自信を持って木造建築に取り組むと思います。

